

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教学マネジメント部門 評価・推進部会

(責任者名) 山澤 一誠

(役職名) 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	履修者数は前期365名、後期84名であった。合格率は前期50%、後期70%となった。今年度から学修成果を可視化させるために筆記試験を導入したことも関係してやや合格率は低下した。一方で、授業への参加状況に問題がある学生(複数回の課題の未提出がある、筆記試験を受験していない等)を除いた合格率は前期・後期共に80-85%ほどとなる。 受講姿勢に課題がある学生を早期に抽出し、個別に学習支援を行うことで来年度以降の単位取得率を向上させる。
学修成果	AIやデータサイエンスを活用することによって社会がどのように変化するのか、またそうした状況に私たちがどのように対応していく必要があるのかについて論理的に考察できる視座を与えることができた。学期末の学生へのアンケートでは、「超情報化社会になっている現代だからこそ、データを扱った知識や技術を修得できて良かった。また、この科目は現代社会で不可欠なものなので、時折教科書を見返したいと思った。」「AIや画像処理技術が現代社会でどのような影響を与えているのか、どこまで進歩しているのかを学ぶことが出来ました。社会に出て学んだ知識を活かしていきたいと思います。」「毎回、授業の初めにその授業の問いを示していただくことで、この授業ではどのようなことを考えながら取り組めばよいか分かり、授業理解の助けになりました。」等、これからのAIとの向き合い方を考えるきっかけを与える授業とすることができた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生の学修態度としてのアンケートでは、前期93%/後期97%の学生が自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができ、同様に前期95%/後期93%の学生が全体として意義あるものであったとの回答が得られており、一定の学修成果と共に満足度のある授業が提供できたと捉えている。具体的な学修成果としては、AIに関する社会の動きとそれに合わせた産業構造の変化を中心とした授業を行ったため「専門知識:当該分野において必要とされる専門知識とそれらに応用する能力」が身に着いたが前後期共に60%程度の回答が得られた。また、動画配信によるオンデマンド型授業形態を整え、提出期限等を厳守への指導を徹底したため、「主体性:自主的、継続的に学習する能力」が身に着いたとの回答も前後期共に30%程度得られた。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学期末のアンケートの中で、次期履修者に向けてこの授業についてのアドバイスを記述してもらった。特にオンデマンド型として運用している点について、「主体性」「継続性」「計画性」を持って受講に臨むことの重要性についてアドバイスがなされていたため、本科目を受講する上での具体的なイメージを喚起することにつながり、受講を推奨することに寄与したと考えられる。具体的には「対面講義ではなく、動画の視聴と課題提出で出席となるので、時間が決まってないのが利点です。ですが、対面講義がないためサボりがちになる人もいかもしれません。この科目は自主性を育みたい人におすすめします。」や「最初、好きなきに受けられるから、余裕があるだろうと考えていた。しかし、他の前期の授業が難しかったり課題で、ちゃんと時間を作って受講しないと時間がないことを痛感した。そのため、受講する際は、課題が出たらすぐにやる、何曜日の何時に必ずするといった工夫が必要と考えられる。」といったような学生目線からのオンデマンド型授業への向き合い方についてコメントを得て、その授業評価コメントを公開している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	新入生への全学オリエンテーションの際に、オンデマンド型での運用となる本科目の案内の時間を設けている。また、本科目を紹介するための5分程度の短い動画を配信することで履修率向上に向けて取り組んでいる。また、オンデマンド型の授業における課題提出の重要性を示すために、具体的な履修状況(履修者数や課題提出状況の違いによって生じる合格率等)を動画内で紹介している。実際に前期での履修状況を伝えることで、後期の合格率が20%程度上昇することにつながった。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本科目は、2022年度から1年次生を対象として開講されたため、本科目を履修し、単位を修得して卒業した学生はいない。2023年度から、工学部及び情報工学部において、応用基礎レベルモデルカリキュラムに沿ったプログラムを実施予定であり、それらの科目群を履修した学生の進路・採用状況等を把握していく。</p> <p>当該プログラムについて、産業界の外部委員が参画する会議体にて、履修状況や、対象科目における学期末の授業アンケートの結果を報告し、評価を得た。(2024/3/12開催 令和5年度第2回 福岡工業大学人材育成協議会)</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>AIやデータサイエンスの身近な活用事例を紹介することで、本科目の学習内容の重要性を具体的に伝えられるように工夫している。また、データサイエンスにおいては、実際のデータに触れることができる演習回を用意した。</p> <p>学生への期末アンケートにおいても、「先生の説明、驚くほどわかりやすかったです。毎週末に授業を一つずつ進めていたのですが、おかげさまでそれほど苦ではありませんでした。ありがとうございました。」「スライド資料がテキストに沿って作成されていたため、わかりやすかったです。」等の回答も得られた。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>学生の履修状況及び期末アンケートの結果に基づき、授業内容及びその方法の見直しを行っている。特にオンデマンド型の授業形態における履修の姿勢に関しては単位取得に大きく関わるため、提出期限のリマインド等様々な工夫がなされている。</p>